

平成22年度第3回消費生活eモニターアンケート調査

「かながわ暮らしむきアンケート調査」

目 次

第1章 調査の概要	… P2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査方法	
4 調査期間	
5 回答者の属性	
第2章 調査結果	… P3
第3章 まとめ	… P20
第4章 単純集計結果	… P21

【 以下のホームページも是非ご覧下さい。 】

かながわの消費生活
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100548/>

第1章 調査の概要

1 調査目的

県民の暮らしの実態と家計や物価についての意識を把握し、今後の参考とするため、平成22年度消費生活eモニター第3回アンケート調査として「かながわ暮らしむきアンケート調査」を実施しました。なお、この調査は昭和58年度から毎年実施しています。

2 調査方法

インターネットによるアンケート調査

3 調査期間

平成23年1月7日(金)から1月17日(月)まで

上記期間に161名のモニターの回答があった。また残り39名のモニターを対象として1月21日(金)から1月24日(月)に追加調査を実施し、16名からの回答があった。以下、両方の期間の回答を合わせて集計する。

4 調査対象

消費生活eモニター 200名 有効回答者 177名

5 回答者の属性（下記の内容は、アンケート参加時の登録内容に基づいて集計しております。）

性別	男性	79名	女性	98名
年齢	20歳代	17名(男性：5名 女性：12名)		
	30歳代	55名(男性：16名 女性：39名)		
	40歳代	50名(男性：18名 女性：32名)		
	50歳代	19名(男性：9名 女性：10名)		
	60歳代	27名(男性：22名 女性：5名)		
	70歳以上	9名(男性：9名 女性：0名)		

第2章 調査結果

<<分析にあたって>>

グラフ・表中の％は、少数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを示しているため、合計が100%にならない場合があります。

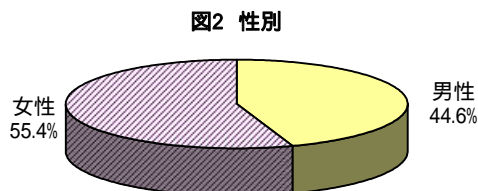
設問はQ2から、グラフは図2から開始しています。

Q3、Q11、Q16の結果の「年代」、Q2の「性別」はこの第4回消費生活eモニターアンケート調査における回答結果であり、第1章の「調査の概要」に含まれる、アンケート回答者からモニター登録時にいただいた内容とは異なります。

1. 回答者の属性

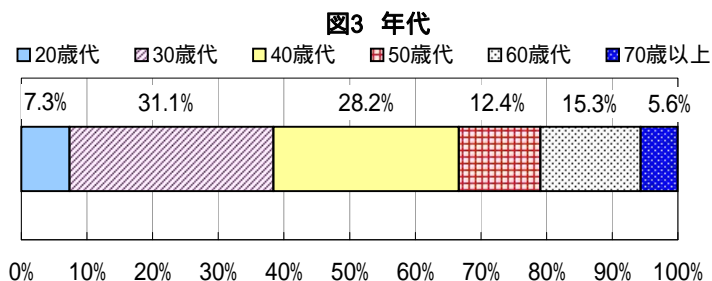
Q2 性別

男性	79名
女性	98名



Q3 年代

20歳代	13名
30歳代	55名
40歳代	50名
50歳代	22名
60歳代	27名
70歳以上	10名

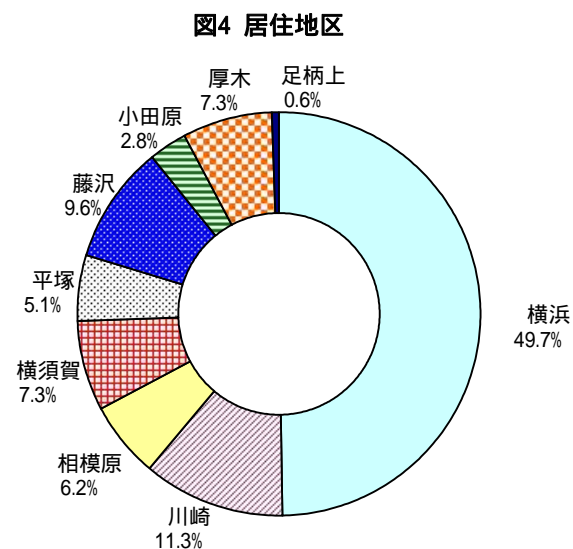


Q4 居住地区

横浜	88名
川崎	20名
相模原	11名
横須賀	13名
平塚	9名
藤沢	17名
小田原	5名
厚木	13名
足柄上	1名

<地区の区分>

横浜市
川崎市
相模原市
横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町
平塚市・伊勢原市・秦野市・大磯町・二宮町
藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町
小田原市・箱根町・湯河原町・真鶴町
厚木市・海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・愛川町・清川村
南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町



Q5 同居家族 及び Q6 世帯構成

同居家族数は「2人」が最も多く、つづいて「3人」と「4人」となった。

世帯構成は、2世代同居家族が49.7%で最も多く、つづいて夫婦世帯が34.5%、単身世帯が8.5%となった。

図5 同居家族数(回答者自身を含む)

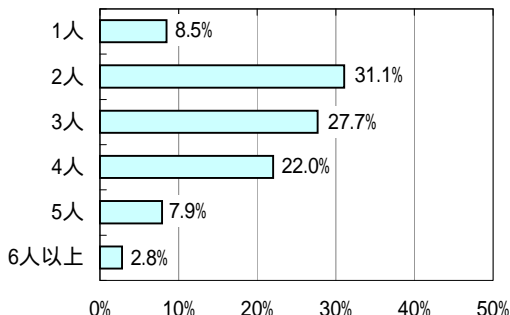
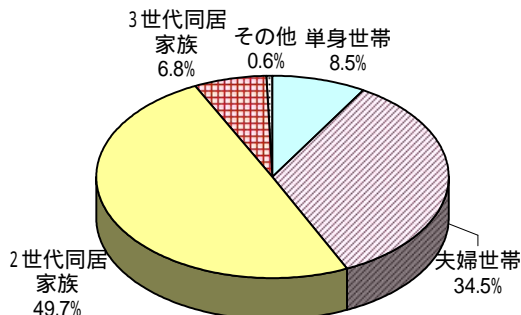


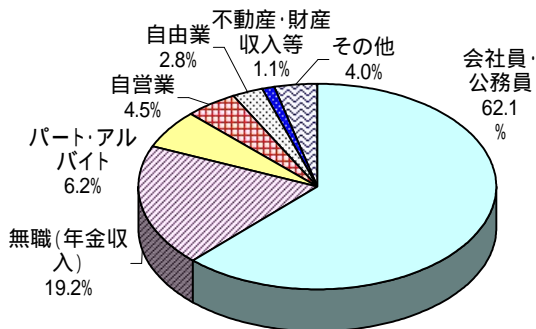
図6 世帯構成



Q7 世帯主の職業

世帯主の職業は、会社員・公務員が62.1%で最も多く、次に無職(年金収入)が19.2%、パート・アルバイトが6.2%だった。

図7 世帯主の職業



Q8 世帯主以外の就業者の有無 及び Q9 その職業

世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯は45.2%で、その80名のうち主な仕事は、「パート・アルバイト」が46名、「会社員・公務員」が30名だった。

図8 世帯主以外に収入を得ている人の有無

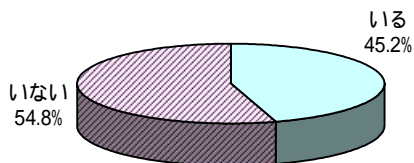
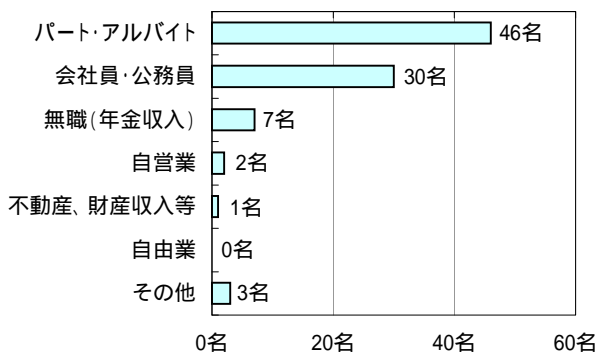
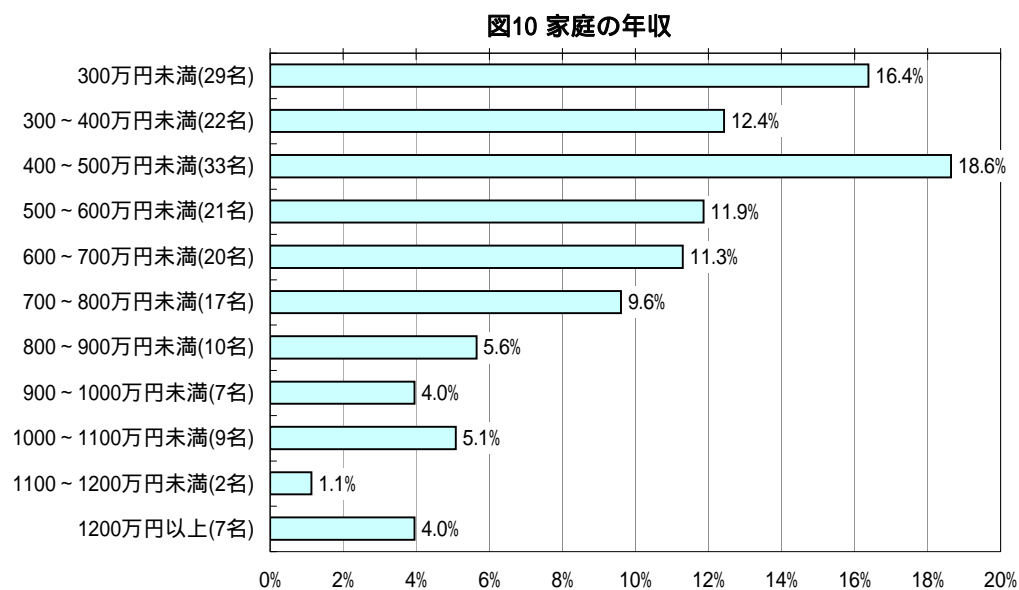


図9 世帯主以外に収入を得ている人の職業 (複数回答、総数80名)



Q10 家庭の年収

家庭の年収は、「400～500万未満」が最も多く、つづいて「300万未満」、「300～400万未満」、「500～600万未満」が多かった。

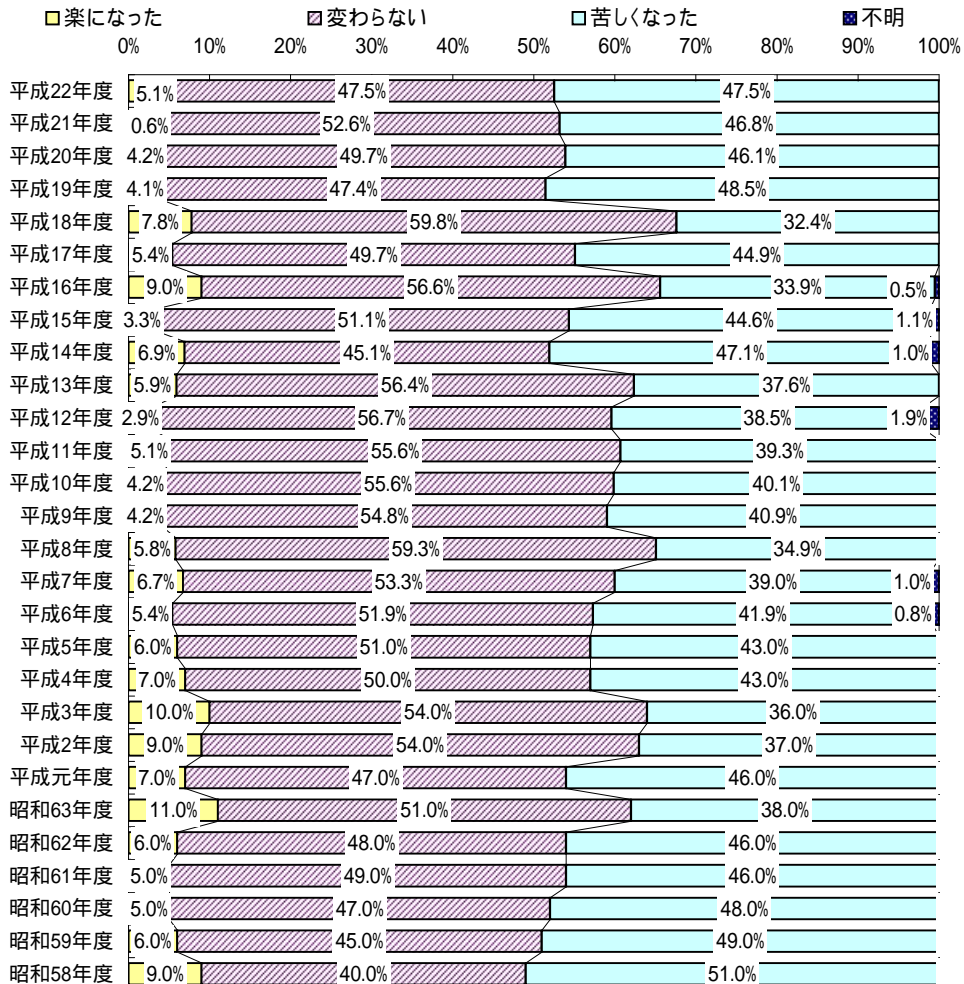


2.暮らしむきと生活意識

Q11 暮らしむきの意識

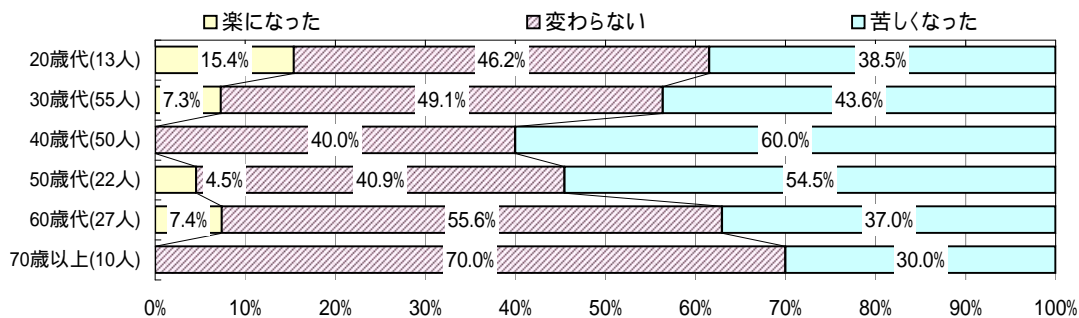
昨年の同時期と比べてご家族の暮らしむきがどうなったかという設問については、「変わらない」「苦しくなった」がともに47.5%で最も多かった。「楽になった」は昨年と比べて増加して5.1%だった。

図11-a 暮らし向きの推移

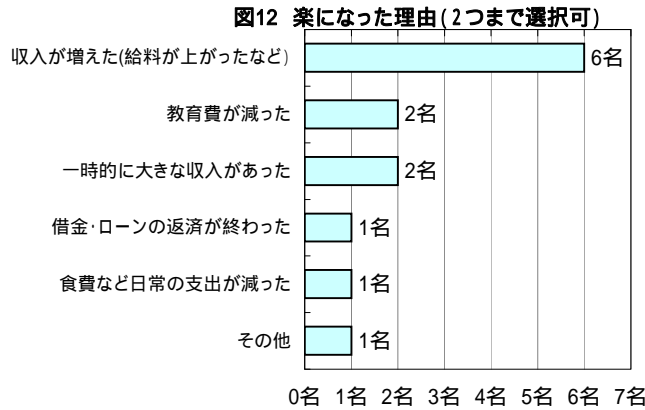


年代別に見ると、40歳代、50歳代では「苦しくなった」が「変わらない」に比べて多く、40歳代では「苦しくなった」が6割であった。その他の年代では「変わらない」が「苦しくなった」より多く、70歳代では「変わらない」が7割であった。

図11-b 暮らし向き(年代別)

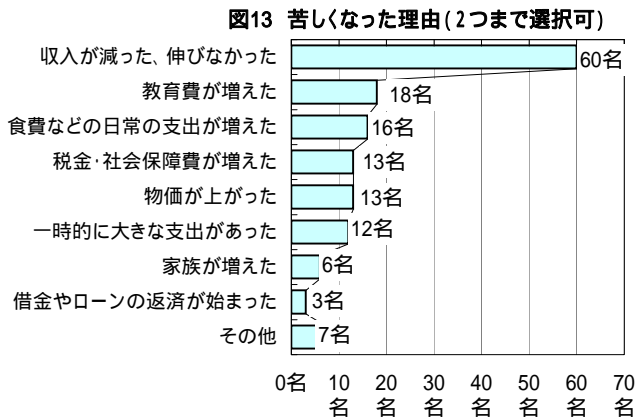


Q12 楽になった主な理由



Q11で「楽になった」と回答した9名に理由をたずねたところ、「収入が増えた(給料が上がったなど)」が6名で最も多かった。

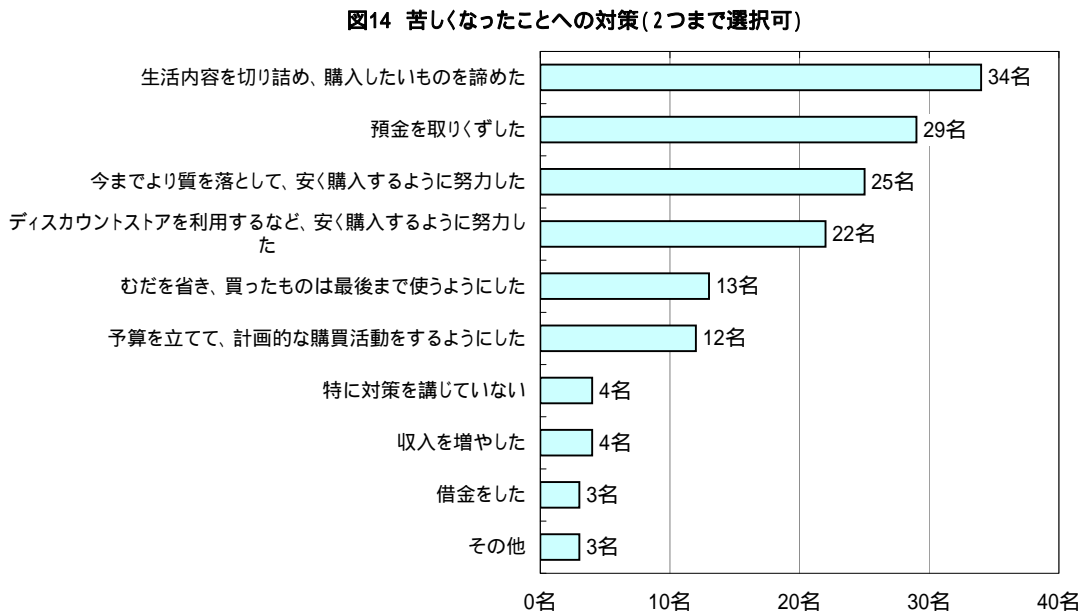
Q13 苦しくなった主な理由



Q11で「苦しくなった」と回答した84名に理由をたずねたところ、「収入が減った、伸びなかった」が60名で最も多かった。

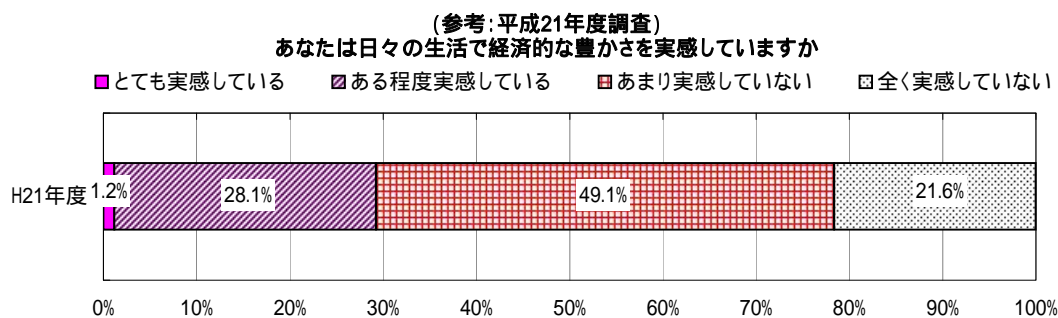
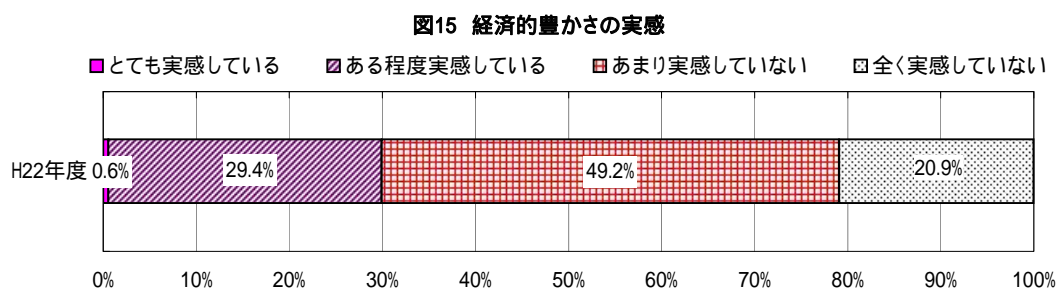
Q14 苦しくなったことへの対策

Q11で「苦しくなった」と回答した84名に、講じた対策をたずねたところ、「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」が34名で最も多く、「預金を取りくずした」が29名、次いで「安く購入するよう努力」が25名となった。



Q15 経済的豊かさの実感

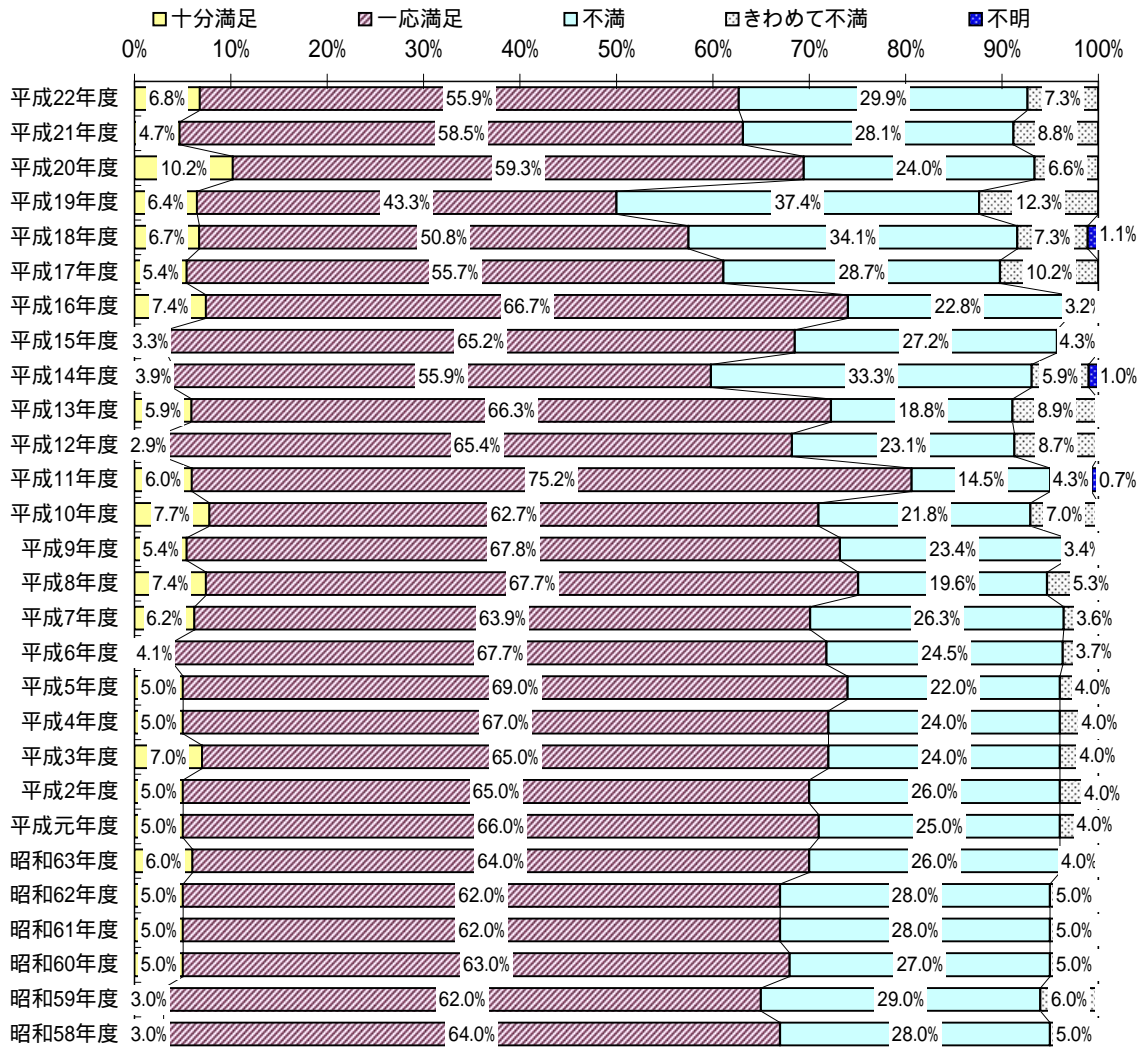
日々の生活で経済的な豊かさを実感しているかという設問については、「あまり実感していない」が49.2%で最も多く、昨年度と比べて0.1ポイント増加し、ついで「ある程度実感している」が29.4%で、前年度と比べて1.3ポイント増加した。



Q16 暮らしの満足度

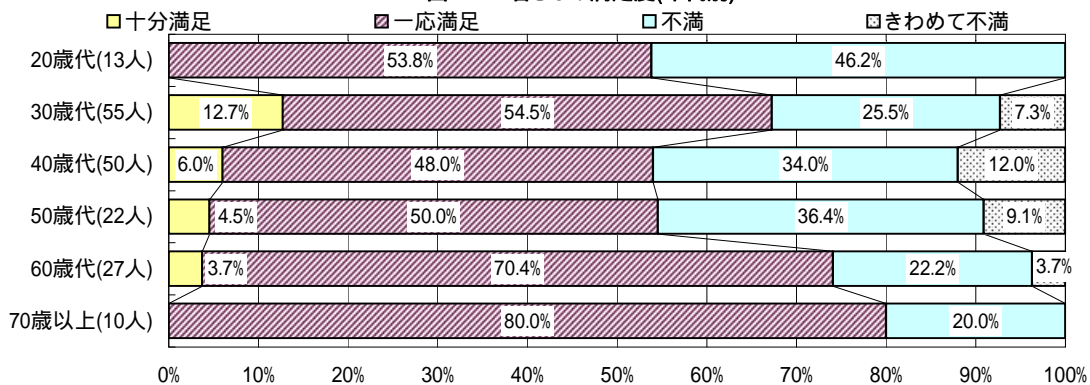
現在の暮らしの満足度については、「一応満足」が55.9%で最も多く、また「十分満足」と合わせると62.7%となり、満足している人が全体の6割を超えた。一方、「不満」「きわめて不満」を合わせると37.2%となり、前年度より0.3ポイント増加した。

図16-a 暮らしの満足度の推移



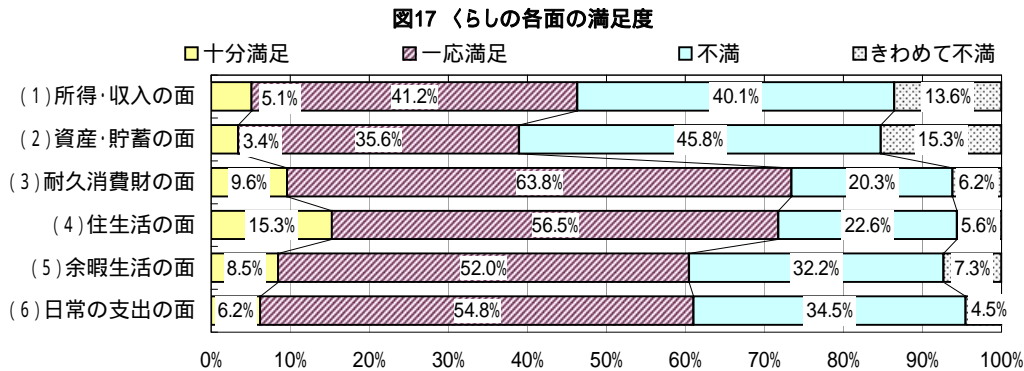
暮らしの満足度を年代別に見ると、「十分満足」と「一応満足」をあわせた割合が70歳代では8割、60歳代では7割、30歳代では6割を超えたが、それ以外の世代では5割強にとどまった。

図16-b 暮らしの満足度(年代別)



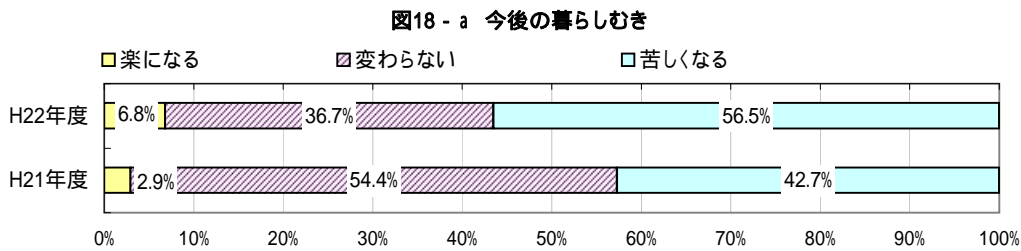
Q17 暮らしの各面の満足度

暮らしの各面での満足度については、「十分満足」と「一応満足」を合わせた比率が、「耐久消費財の面」「住生活の面」「耐久消費財の面」では7割を超え、「余暇活動の面」「日常の支出の面」では6割を超えたが、「所得・収入の面」では5割弱、「資産・貯蓄の面」では4割弱にとどまった。

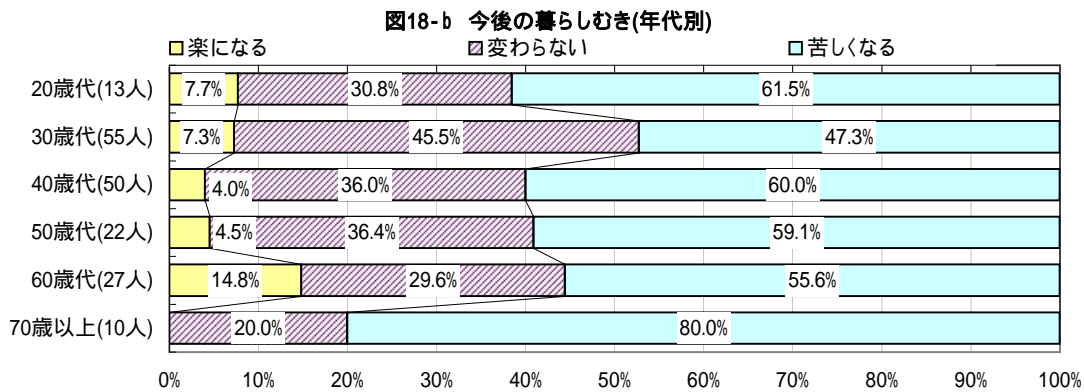


Q18 今後の暮らしむき

今後の暮らしむきの見通しについては、「苦しくなる」が昨年度と比べて13.8ポイント増加して56.5%だった。逆に、「楽になる」「変わらない」が合わせて43.5%と減少した。



今後の暮らしむきの見通しを年代別に見ると、「苦しくなる」と回答した人の割合は、70歳以上が80.0%と大きく、次いで20歳代が61.5%、40歳代が60.0%となった。



Q19～21 「Q18」の回答理由

Q18で回答した理由をそれぞれたずねたところ、以下のとおりだった。(自由記入、要約・抜粋)

<回答=楽になる> 6.8%

- * 収入が増えたため
- * 無駄遣いを減らすため
- * 出費を減らすため(保険料、税金、行事、住居修繕など)
- * 収入は変化なしでもないなりに楽しく

<回答=変わらない> 36.7%

- * 収入・支出とも変わらないと思われる
- * 病気がないから
- * 景気回復が望めない
- * 収入に応じた暮らしだから
- * 物価・景気が変わらないと思われる

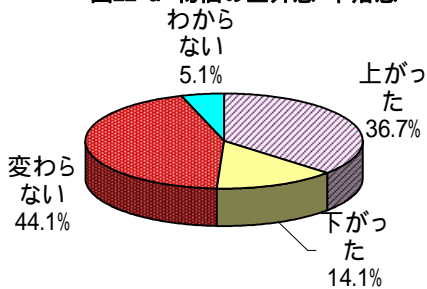
<回答=苦しくなる> 56.5%

- * 収入が減る
- * 子供が幼稚園に入る
- * 子供が進学する
- * 物価が上がる
- * 医療費が上がる
- * 税金が上がる

3. 物価と家計について

Q22 物価の上昇感・下落感

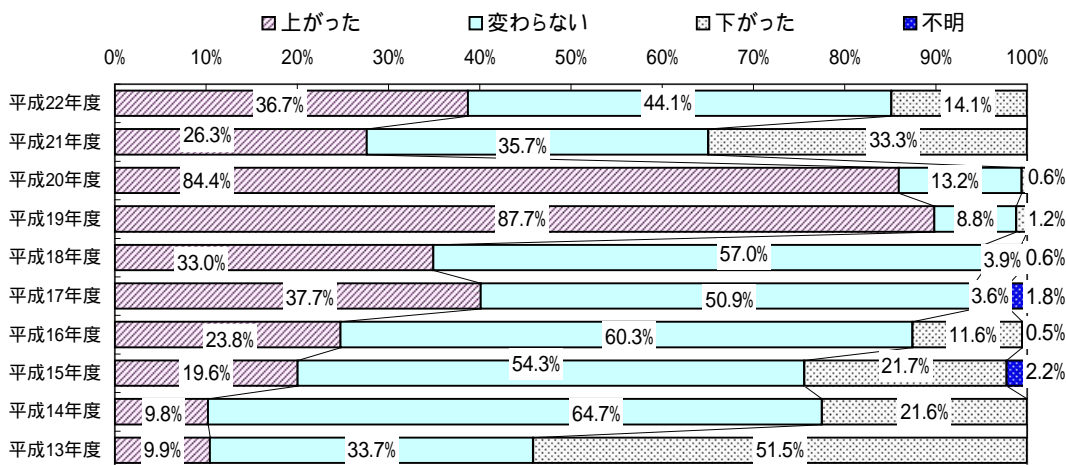
図22-a 物価の上昇感・下落感



この1年間の物価についてどのように感じているかについては、「変わらない」が44.1%で最も多く、次いで「上がった」が36.7%だった。

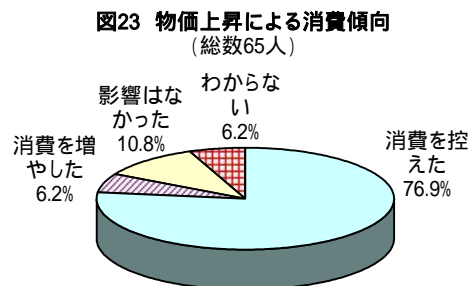
物価の上昇感・下落感について9年前(平成13年度)と比較してみると、「上がった」は約4倍に増えており、1年前(平成21年度)との比較では約10ポイント増えている。

図22-b 物価の上昇感・下落感



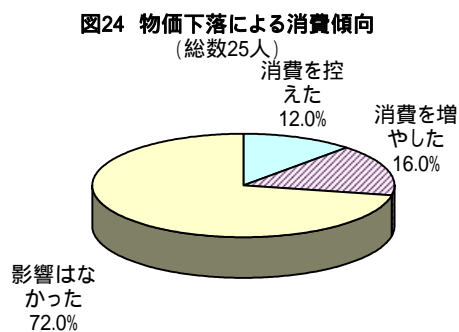
Q23 物価上昇の影響

Q22で「上がった」と回答した65名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「消費を控えた」が76.9%で最も多かった。



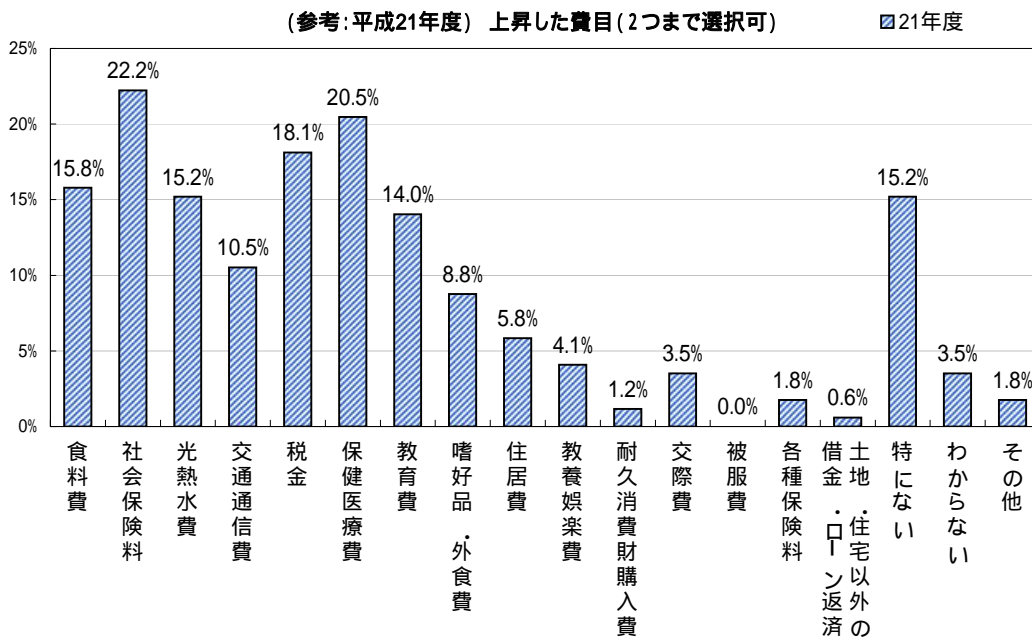
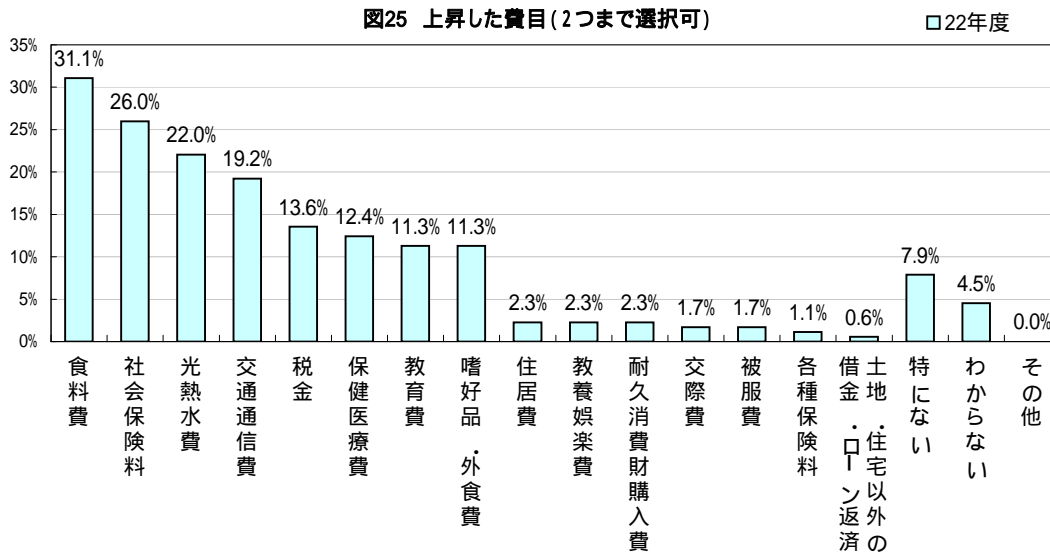
Q24 物価下落の影響

Q22で「下がった」と回答した25名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「影響はなかった」が72.0%で最も多かった。



Q25 上昇した費目

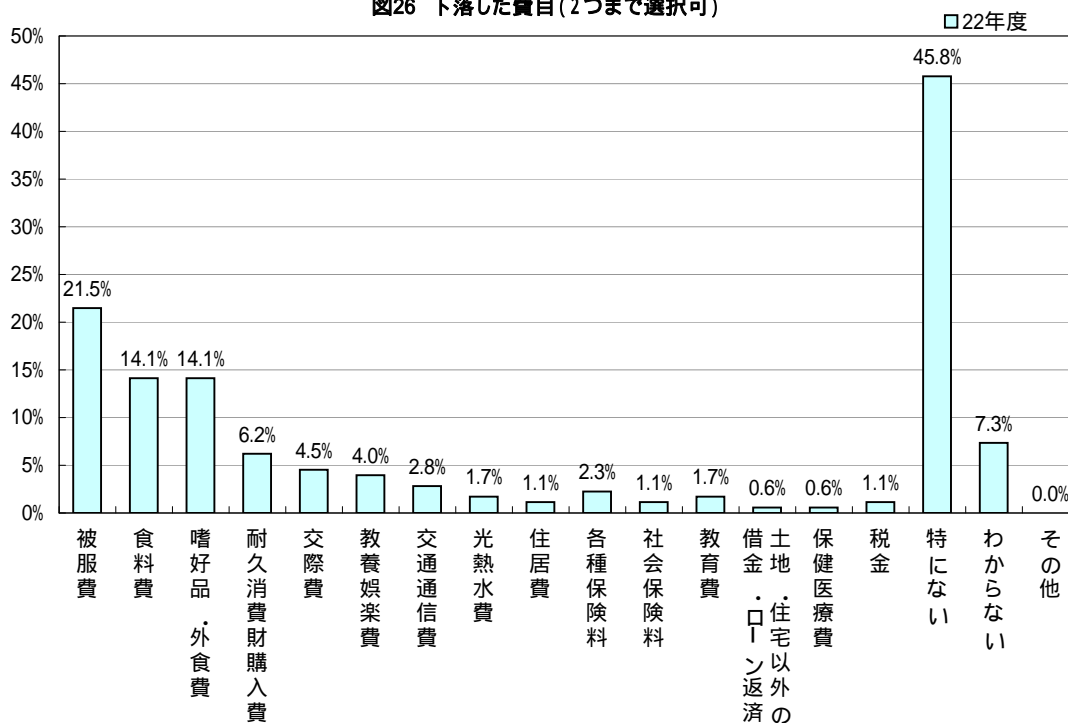
この1年間の物価について、どの費目で特に上がったと思うかについては、「食料費」が31.1%で最も多く、次いで「社会保険料」が26.0%となった。



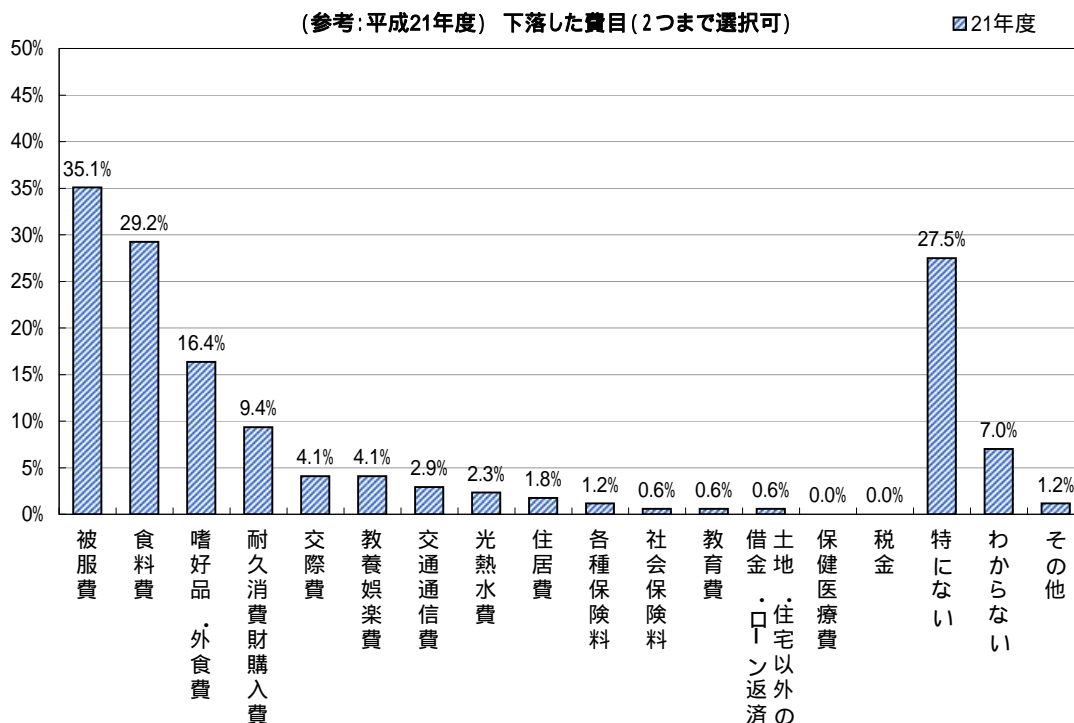
Q26 下落した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に下がったと思うかについては、「特
にない」が45.8%で最も多く、次いで「被服費」が21.5%、「食料費」・「嗜好品・
外食費」が14.1%となった。

図26 下落した費目(2つまで選択可)



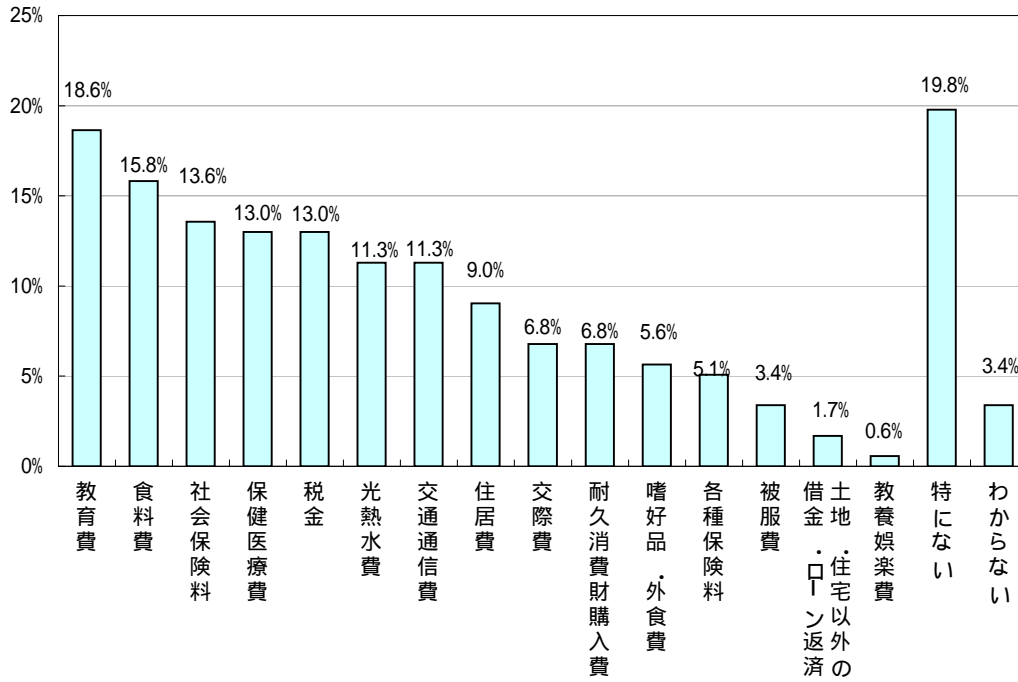
(参考:平成21年度) 下落した費目(2つまで選択可)



Q27 家計を圧迫している費目

支出面で、特に増えて家計を圧迫している費目については、「特にない」が19.8%で最も多く、つづいて「教育費」が18.6%、「食料費」が15.8%、「社会保険料」が13.6%、「保健医療費」と「税金」が並んで13.0%だった。

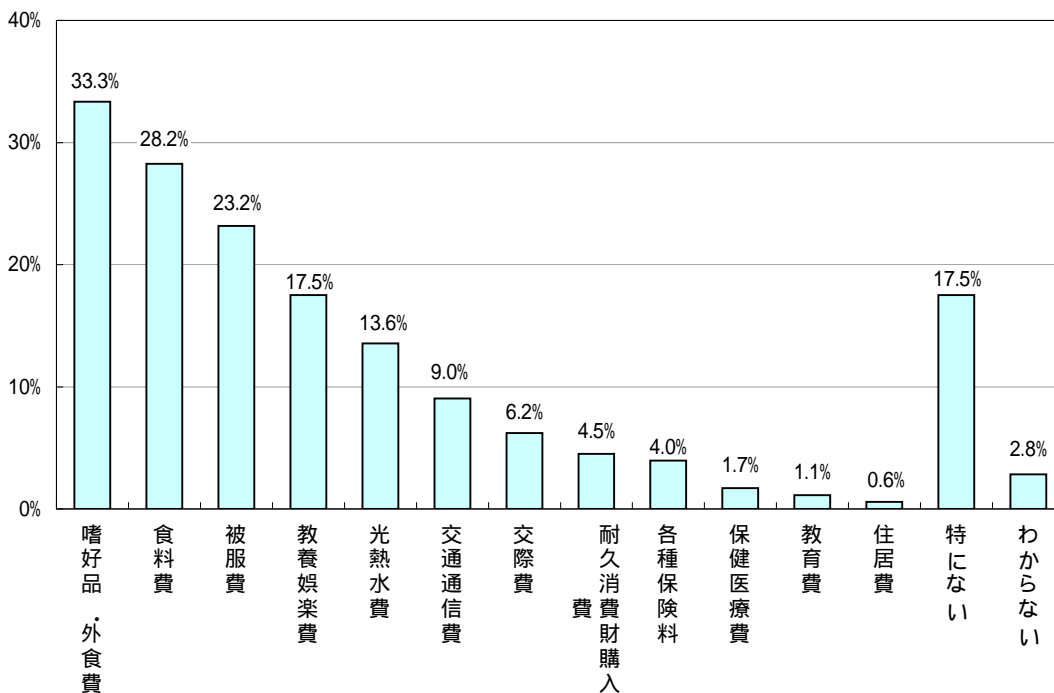
図27 家計を圧迫している費目(2つまで回答可)



Q28 切り詰めた費目

支出面で、特に家計で切り詰めた費目については、「嗜好品・外食費」が33.3%で最も多く、次いで「食料費」が28.2%、「被服費」が23.2%であった。

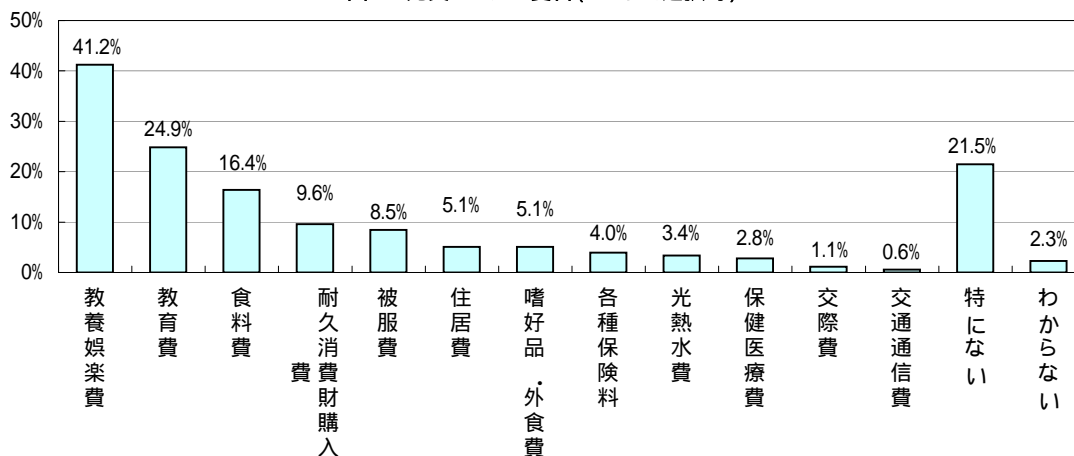
図28 切り詰めた費目(2つまで選択可)



Q29 充実させたい費目

今後、支出面で充実していきたいと思う費目については、「教養娯楽費」が41.2%で最も多く、ついで「教育費」が24.9%、「食料費」が16.4%となった。

図29 充実させたい費目(2つまで選択可)



Q30 充実させたい費目に関する考え(自由記入) ~抜粋・要約~

Q29で充実させたいと回答した費目についての考えを聞いたところ、以下のとおりであった。(自由記入、抜粋・要約)

教養娯楽費 41.2%

- * 子供と旅行にたくさん行きたい
- * 心のゆとりがほしい
- * 還暦を過ぎたのでこれからは自己のために消費をしたい
- * 趣味の分野を充実させたい。
- * 教養を深めたい

教育費 24.9%

- * 子どもにかかるお金は惜しまず使っていきたい
- * 子供達に習い事をさせたい。塾に行かせたい
- * 子供たちには貧しい思いはさせたくないから
- * 子供の将来に向けて教育してあげたいから。
- * こどもが生まれた為、子育てにより環境を作りたい

食料費 16.4%

- * 唯一の楽しみだから。
- * 毎日の食事は大切と考えている
- * 国産の食べ物にこだわりたい

耐久消費財購入費 9.6%

- * 冷蔵庫など耐久期間のきているものの買い替え
- * 新しい家電製品いろいろ欲しい

被服費 8.5%

- * 洋服や書籍の予算を増やし、生活の質を向上させたい。
- * 娯楽を増やしたい

住居費 5.1%

- * 家のケアが必要な時期になった
- * 家が欲しい

嗜好品・外食費 5.1%

- * 大事で節約は無理
- * 身近なところで楽しむ

各種保険料 4.0%

- * 老後に備えて

光熱水費 3.4%

- * 入浴回数の増加

保健医療費 2.8%

- * 健康面での社会的サポートを含めて充実を図りたい

交際費 1.1%

- * 自営の為、交際や見識を広める必要がある

交通通信費 0.6%

- * 地域巡回の交通手段(買い物)

Q31 「暮らしむき」や「物価と家計」に関して

「暮らしむき」や「物価と家計」について日頃感じていることを聞いたところ、以下のとおりであった。（自由記入、抜粋・要約）

【物価全般】

- * 物価が上がると家計に影響が大きいので、暮らしむきもかたむく。
- * 物価が下がったような話もきくが、生活は少しも豊かにはならない。
- * 物価が下がっているということに違和感をもっている。ビックリする程あがっている物の方が多い。
- * 物価が二極化していると思う。通信費等が高いと思う。
- * 物価が余り下がり過ぎると、収入が減少するので暮らしむきは良くなれないと思う。
- * デフレが続いたらどうなるのか不安。
- * 安さを売りにしたものが多く、安いから買うのではなく、本当に欲しいものを買いたいと思う。
- * デフレ傾向が言われるも、日常生活品目の物価高騰は、低所得者の家計を圧迫する

【食費】

- * 野菜が高いので、物価が上がったように感じる。
- * 野菜などの必需品が高かったのが非常に厳しかった。
- * 野菜の値段が高いため最小限の購入にとどめ、使い方にも気を付けるようになった。

【家計】

- * 収入が大幅に減ってしまい、回復するまで欲しい物は買わないことにしたが辛い。
- * 収入は減るのに物価が上がり生活が苦しい。
- * 生活費の切り詰めは限界に達している。
- * 日々の支出が増える反面で所得や収入は減る一方で生活は苦しくなるばかり。閉塞感とストレスで一杯の毎日。
- * 年々暮らしむきが悪くなっていく気がしている。節約すれば家計はトントンだが余裕がない。
- * 人と人が仲良くすれば、暮らしは良くなると思う。 不要な物は買わないで必要な物だけを買いたい。

【節約】

- * この一年で切り詰めて生活することに慣れた。
- * つつましく生きることの大切さを常に心がけている。
- * 家族が健康に暮らせれば、物の不備や切り詰めに伴う我慢は気にならない範囲で生活できる。
- * 基本的にローンを組まないなど、可能な範囲で背伸びしない生活をすればいいと思う。
- * 消費を抑える事が税込減につながり、自ら不況を招いている感覚がある。
- * 節約できるものは切り詰めて心の豊かさを保つ家族の時間や自己投資は必要。
- * 無駄を省き質素に暮らし、ささやかな楽しみを持ち老後を過ごしたい。
- * 流行に左右される事無く、物を大事にしながら生活していきたい。

【貯蓄】

- * 質素に工夫を凝らしながら生活して貯蓄を増やしたい。
- * 収入が多少増えても暮らし向きを変えるつもりはない。今後に備えて貯金すると思う。
- * 将来の不安が常にあるのでできるだけ貯蓄にまわしたい。
- * 年金財政の不安から、現在の暮らし向きにつながる消費よりも未来のための貯蓄を優先させている。
- * 被服費や娯楽費を節約しても、固定費がかさんで、貯金が思うように出来ない。

【生活不安】

- * 給与が上がらないので、余暇や貯蓄に回すことができず、将来が不安。
- * 就職難で思うような仕事につけないし老後も日々のくらしも毎日不安。
世間一般的ではなく、昨今個人的には将来に漠とした不安を払拭できずにいる。
年金が物価スライド制でないためや増税等で希望がない。
- * 暮らしはあまり変わらないが、将来に不安もある。
- * 老後の心配 何時まで元気が続くか？
- * 老後の生活費や介護費用についてどの位かかるか予測がつかないので今から心配です。

【子育て支援・教育】

- * こどもがしたい習い事をさせられなくて残念。
- * 家計に占める教育費の負担は大きい。子供手当だけでなく大学までを含めた育成の支援を希望。
- * 外食等控え教育等必要な予算を残すようにし将来を見据えた暮らしを心がけている。
- * 今後収入が増えることはあまりないのに教育費が増えていくので、これから厳しくなる。

【医療費・健康】

- * 国民健康保険、税金など、医療費など節約の余地のない項目の負担増が気になっている。
- * 今後の「保険医療費」関連の動向が懸念される。

【税金・社会保険料】

- * 収入の減少と税金、社会保険料等の増大で家計はますます苦しくなる一方。
- * 住民税が高すぎる。
- * 単身者にとって住民税が高いし、健康保険料も高すぎて、医療を受ける余裕もなくなっている。
- * 税金・社会保険が増加傾向で、精神的にも苦痛、将来は悲観的。
- * 社会保険料の値上げ等将来希望が持てない。しかし、孫の世代を考えると消費税値上げしかないのでは。

【不景気】

- * 社会全般が余裕が無くなってぎすぎすしていると思う。
- * 早く経済が回復してほしい。
- * 支出を抑えることが、かえって生活の質を下げている。社会全般が不況に神経質になりすぎていると感じる。
- * 世の中不景気と言われているがデパートに行けば高い商品を買っている人が多い。暮らし向きは悪いと思わない。

【ライフスタイル・価値観の変化】

- * 娯楽に使えるお金の余裕がないので家にいる機会が極端に増えた。
- * 豊かさとはお金ではなく、今こうして生きている事だと感謝する事が大切だと感じるようになりました。
- * 何を購入するにしろ、自由時間を有効に活用して多方面からの選択を検討する様にする。

【政治・行政】

- * 国の情勢が思いのほか不安定に感じ、安心して大きな買い物が出来ない。
- * 収入が限られインフレも困るが、行き過ぎたデフレも経済が回らず、雇用も減る。政策的誘導が必要である。
- * 政策が不安定のため、長期経済予定が立てられず、不安を抱えながらの生活を強いられている。地デジ化やエコポイントなどで行政が物欲や買い替えをあおるのは、無駄遣い促進だと思う。定年後の生活に夢を持てる公共施策を、もっと充実させて欲しい。
- * 日本経済は閉塞している。既存の既得権に切り込む構造改革が必要。
- * 一刻も早く消費税引き上げを正面から議論すべき。

【格差社会】

- * 収入による生活格差が広がっていると思う 収入減少物価上昇では、苦しい人程苦しい 将来不安に対応できず。
- * 低所得者層には収入を増やすための第一歩を踏み出すこと自体が難しいと感じる。
- * 貧富の差が激しくなっている。

【その他】

- * おおむね満足している。
- * 年金生活のなかで、その範囲で贅沢せずに暮らしていければ。
- * 周りに左右されることなく我が家らしく過ごしたい。
- * 突然壊れる電化製品や住居メンテナンスが、一番打撃が大きかった。
- * 役所も経費節約すべき。

第3章 まとめ

1. 回答者の属性

今回調査したeモニターについて、同居家族数をみると「2人」が最も多く3割を占め、「2人」から「4人」が全体の8割強を占めている(図5)。世帯構成では「2世帯同居家族」が5割近くを占め、「夫婦世帯」が3割強を占めている(図6)。世帯主の職業は「会社員・公務員」が6割弱、ついで「無職(年金収入)」が2割弱であった(図7)。また、世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯は5割弱であった(図8)。家庭の年収は「400~500万円未満」が最も多く、「300万円未満」が続いた。

2. 暮らしむきと生活意識

昨年と同時期に比べた暮らし向きについては、「変わらない」「苦しくなった」がともに5割弱で、「楽になった」は約5%だった(図11-a)。苦しくなった理由としては「収入が減った、伸びなかった」が最も多く(図13)、その対策としては「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」が最も多かった(図14)。

一方、現在の暮らしの満足度については、「十分満足」「一応満足」を合わせると6割強だった(図16-a)。暮らしの各面の満足度では、「十分満足」「一応満足」を合わせた割合が「耐久消費財」「住生活」の面では7割を超え、「余暇生活」「日常の支出」の面では6割を超えた一方で、「所得・収入」の面では5割弱、「資産・貯蓄」の面では4割弱にとどまった(図17)。

今後の暮らしむきの見通しについては、「苦しくなる」は昨年度と比べて13.8ポイント増加して56.5%だった。「変わらない」は17.7ポイント減少して42.7%だった(図18-a)。「苦しくなる」と回答した人の割合を年代別に見ると、70歳以上が8割、20歳代・40歳代・50歳代も約6割と多かった(図18-b)。

3. 物価と家計について

物価の上昇感・下落感については、「変わらない」と感じた人が4割強と最も多かった(図22-a)。この1年間で物価が上がったと思う「費目」は、「食糧費」が最も多く3割強で、次に多いのは「保健医療費」で、3割弱だった(図25)。下がったと思う「費目」では、「被服費」が2割強で最も多く、次いで「食料費」「嗜好品、外食費」が1割強だった。支出面で家計を圧迫している費目においても、「保健医療費」は2割強で最も多かった(図27)。

最後に「暮らしむき」や「物価と家計」に関して日ごろ感じていることを自由に記入してもらったところ、「物価が上がること」「物価が下がることにより収入が下がること」「節約することにより景気が抑制されること」など、様々な方向性によって家計に影響が表れることに不安があることが示された。その中で、「健康に暮らせれば、物の不備や切り詰めに伴う我慢は気にならない範囲で生活できる」「節約できるものは切り詰めて心の豊かさを保つ家族の時間や自己投資は必要」「可能な範囲で背伸びしない生活をすればいいと思う」等、現状への前向きな取り組み方を示すご意見もいただいた。

第4章 単純集計結果

1 回答者の属性

Q2 性別

	人数	%
男性	79	44.6%
女性	98	55.4%

N = 177

Q3 年代

	人数	%
20歳代	13	7.3%
30歳代	55	31.1%
40歳代	50	28.2%
50歳代	22	12.4%
60歳代	27	15.3%
70歳代以上	10	5.6%

N = 177

Q4 居住地区

	人数	%
横浜地区 (横浜市)	88	49.7%
川崎地区 (川崎市)	20	11.3%
相模原地区 (相模原市)	11	6.2%
横須賀地区 (横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町)	13	7.3%
平塚地区 (平塚市・伊勢原市・秦野市・大磯町・二宮町)	9	5.1%
藤沢地区 (藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町)	17	9.6%
小田原地区 (小田原市・箱根町・湯河原町・真鶴町)	5	2.8%
厚木地区 (厚木市・海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・愛川町・清川村)	13	7.3%
足柄上地区 (南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町)	1	0.6%

N = 177

Q5 同居家族数

	回答数	%
1人	15	8.5%
2人	55	31.1%
3人	49	27.7%
4人	39	22.0%
5人	14	7.9%
6人以上	5	2.8%

N = 177

Q6 世帯構成

	回答数	%
単身世帯 (本人のみ)	15	8.5%
夫婦世帯 (本人と配偶者)	61	34.5%
2世代同居家族 (親と子)	88	49.7%
3世代同居家族 (親と子と孫)	12	6.8%
その他	1	0.6%

N = 177

Q7 世帯主(主たる収入を得ている方)のお仕事は、次のうちどれですか。

	回答数	%
会社員・公務員	110	62.1%
無職(年金収入のみ)	34	19.2%
自営業	11	6.2%
パート・アルバイト	8	4.5%
不動産、財産収入等	5	2.8%
学生	2	1.1%
自由業	0	0.0%
その他	7	4.0%

N = 177

Q8 あなたのご家庭には、世帯主以外に収入を得ている方がいますか。

	回答数	%
いる	80	45.2%
いない	97	54.8%

N = 177

Q9 Q8で「いる」と回答した人に設問。
世帯主以外に収入を得ている方のお仕事は、次のうちどれですか。(複数回答可)

	回答数	%
パート・アルバイト	46	51.7%
会社員・公務員	30	33.7%
自営業	7	7.9%
自由業	2	2.2%
無職(年金収入のみ)	1	1.1%
不動産、財産収入等	0	0.0%
その他	3	3.4%

N = 89

Q10 あなたのご家族の年収は総額でどのくらいですか。税金・社会保険料を含めた金額でお答えください。

	回答数	%
300万円未満	29	16.4%
300万～400万円未満	22	12.4%
400万～500万円未満	33	18.6%
500万～600万円未満	21	11.9%
600万～700万円未満	20	11.3%
700万～800万円未満	17	9.6%
800万～900万円未満	10	5.6%
900万～1,000万円未満	7	4.0%
1,000万～1,100万円未満	9	5.1%
1,100万～1,200万円未満	2	1.1%
1,200万円以上	7	4.0%

N = 177

2 暮らし向きと生活意識

Q11 今年のあなたのご家族の暮らしむきは、昨年の今頃と比べていかがですか。

	回答数	%
楽になった	9	5.1%
変わらない	84	47.5%
苦しくなった	84	47.5%

N = 177

Q12 Q11で「楽になった」と回答した人に設問。
そう考える理由を次の中から選んでください。(2つまで選択可)

	回答数	%
収入が増えた(給料が上がったなど)	6	66.7%
家族が独立した(お子さんの就職など)	2	22.2%
借金やローンの返済が終わった	2	22.2%
教育費が減った	1	11.1%
一時的に大きな収入があった	1	11.1%
食費などの日常の支出が減った	1	11.1%
税金・社会保障費が減った	9	100.0%
物価が下がった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%

N = 9

Q13 Q11で「苦しくなった」と回答した人に設問。
そう考える理由を次の中から選んでください。(2つまで選択可)

	回答数	%
物価が上がった	60	71.4%
収入が減った、収入が伸びなかった	18	21.4%
食費などの日常の支出が増えた	16	19.0%
教育費が増えた	13	15.5%
税金・社会保障費が増えた	13	15.5%
家族が増えた	12	14.3%
借金やローンの返済が始まった	6	7.1%
一時的に大きな支出があった	3	3.6%
その他	7	8.3%

N = 84

Q14 Q11で「苦しくなった」と回答した人に設問。
苦しくなったことに対して、どのような対策を講じましたか。(2つまで回答可)

	回答数	%
生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた	34	40.5%
預金を取りくずした	29	34.5%
今までより質を落として、安価な物を購入するようにした	25	29.8%
ディスカウントストアを利用するなど、安く購入するように努力した	22	26.2%
むだを省き、買ったものは最後まで使うようにした	13	15.5%
予算を立てて、計画的な購買活動をするようにした	12	14.3%
収入を増やした	4	4.8%
特に対策を講じていない	4	4.8%
借金をした	3	3.6%
その他	3	3.6%

N = 84

Q15 あなたは日々の生活で経済的な豊かさを実感していますか。

	回答数	%
とても実感している	1	0.6%
ある程度実感している	52	29.4%
あまり実感していない	87	49.2%
全く実感していない	37	20.9%

N = 177

Q16 あなたは、全体として、現在の暮らしについてどう思っていますか。

	回答数	%
十分満足	12	6.8%
一応満足	99	55.9%
不満	53	29.9%
きわめて不満	13	7.3%

N = 177

Q17 あなたは、次の暮らしのそれぞれの面では、どう思っていますか。

所得・収入の面

	回答数	%
十分満足	9	5.1%
一応満足	73	41.2%
不満	71	40.1%
きわめて不満	24	13.6%

N = 177

資産・貯蓄の面

	回答数	%
十分満足	6	3.4%
一応満足	63	35.6%
不満	81	45.8%
きわめて不満	27	15.3%

N = 177

耐久消費財(車・電化製品など)の面

	回答数	%
十分満足	17	9.6%
一応満足	113	63.8%
不満	36	20.3%
きわめて不満	11	6.2%

N = 177

住生活(住居)の面

	回答数	%
十分満足	27	15.3%
一応満足	100	56.5%
不満	40	22.6%
きわめて不満	10	5.6%

N = 177

余暇生活の面

	回答数	%
十分満足	15	8.5%
一応満足	92	52.0%
不満	57	32.2%
きわめて不満	13	7.3%

N = 177

日常の支出(食費など)の面

	回答数	%
十分満足	11	6.2%
一応満足	97	54.8%
不満	61	34.5%
きわめて不満	8	4.5%

N = 177

Q18 あなたのご家庭の暮らしむきは、今後一年間程度の期間で考えた場合、どうなっていくと思われますか。

	回答数	%
楽になる	12	6.8%
変わらない	65	36.7%
苦しくなる	100	56.5%

N = 177

Q19~21 Q18の回答のように思われる理由を簡潔にお書きください。
第2章参照

3 物価と家計について

Q22 この一年間の物価全般についてどう感じていますか。

	回答数	%
上がった	65	36.7%
下がった	25	14.1%
変わらない	78	44.1%
わからない	9	5.1%

N = 177

Q23 Q22で「上がった」と回答した人に設問。この一年間の物価の上昇は、あなたのご家庭の消費傾向にどのような影響を与えましたか。

	回答数	%
消費を控えた	50	76.9%
消費を増やした	4	6.2%
影響はなかった	7	10.8%
わからない	4	6.2%

N = 65

Q24 Q22で「下がった」と回答した人に設問。この一年間の物価の下落は、あなたのご家庭の消費傾向にどのような影響を与えましたか。

	回答数	%
消費を控えた	3	12.0%
消費を増やした	4	16.0%
影響はなかった	18	72.0%
わからない	0	0.0%

N = 25

Q25 この一年間の物価について、特に上がったと思う費目は何ですか。次の中から選んでください。(2つまで選択可)

	回答数	%
食料費	55	31.1%
社会保険料	46	26.0%
光熱水費	39	22.0%
交通通信費	34	19.2%
税金	24	13.6%
保健医療費	22	12.4%
教育費	20	11.3%
嗜好品・外食費	20	11.3%
住居費	4	2.3%
教養娯楽費	4	2.3%
耐久消費財購入費	4	2.3%
交際費	3	1.7%
被服費	3	1.7%
各種保険料	2	1.1%
土地・住宅以外の借金・ローン返済	1	0.6%
特にない	14	7.9%
わからない	8	4.5%
その他	0	0.0%

177

Q26 この一年間の物価について、特に下がったと思う費目は何ですか。次の中から選んでください。
(2つまで選択可)

	回答数	%
被服費	38	21.5%
食料費	25	14.1%
嗜好品・外食費	25	14.1%
耐久消費財購入費	11	6.2%
交際費	8	4.5%
教養娯楽費	7	4.0%
交通通信費	5	2.8%
光熱水費	3	1.7%
住居費	2	1.1%
各種保険料	4	2.3%
社会保険料	2	1.1%
教育費	3	1.7%
土地・住宅以外の借金・ローン返済	1	0.6%
保健医療費	1	0.6%
税金	2	1.1%
特にない	81	45.8%
わからない	13	7.3%
その他	0	0.0%

N = 177

Q27 この一年間のあなたのご家庭の支出で、特に増えて家計を圧迫していると思う費目を選んでください。(2つまで選択可)

	回答数	%
教育費(授業料・入学金・通学費・子供の稽古ごとの費用など)	33	18.6%
食料費(嗜好品・外食費以外)	28	15.8%
社会保険料(健康保険・厚生年金など)	24	13.6%
保健医療費(診療代・入院費・医薬品など)	23	13.0%
税金(所得税・住民税・国定資産税・自動車税・消費税など)	23	13.0%
光熱水費(電気・ガス・灯油・水道など)	20	11.3%
交通通信費(ガソリン代や駐車場など自動車関係費を含む)	20	11.3%
住居費(家賃・地代・住宅ローン返済など)	16	9.0%
耐久消費財購入費(家具調度品・家電製品・自動車など)	12	6.8%
交際費(冠婚葬祭費・贈答品など)	12	6.8%
嗜好品・外食費	10	5.6%
各種保険料(生命保険・損害保険など)	9	5.1%
被服費(和服・洋服・履物・アクセサリー・寝具類など)	6	3.4%
土地・住宅以外の借金やローン返済	3	1.7%
教養娯楽費(書籍・旅行・レジャー施設の利用など)	1	0.6%
特にない	35	19.8%
わからない	6	3.4%

N = 177

- Q28 この一年間のあなたのご家庭で特に切り詰めたと思う家計支出の費目を選んでください。(2つまで選択可)

	回答数	%
嗜好品・外食費	59	33.3%
食料費	50	28.2%
被服費	41	23.2%
教養娯楽費	31	17.5%
光熱水費	24	13.6%
交通通信費	16	9.0%
交際費	11	6.2%
耐久消費財購入費	8	4.5%
各種保険料	7	4.0%
保健医療費	3	1.7%
教育費	2	1.1%
住居費	1	0.6%
特にない	31	17.5%
わからない	5	2.8%

N = 177

- Q29 あなたのご家庭で、今後充実していきたいと思う費目がありましたら、次の中から選んでください。(2つまで選択可)

	回答数	%
教養娯楽費	73	41.2%
教育費	44	24.9%
食料費	29	16.4%
耐久消費財購入費	17	9.6%
被服費	15	8.5%
住居費	9	5.1%
嗜好品・外食費	9	5.1%
各種保険料	7	4.0%
光熱水費	6	3.4%
保健医療費	5	2.8%
交際費	2	1.1%
交通通信費	1	0.6%
特にない	38	21.5%
わからない	4	2.3%

N = 177

- Q30 Q29で充実したいと回答された費目について、お考えを簡潔にお書きください。(計画ではなく、希望等でかまいません。)

第2章参照

- Q31 「暮らしむき」や「物価と家計」に関して日頃お感じのことがありましたら、簡潔にお書きください。

第2章参照